

ちょっと気になるデータ

大学卒業者の就職率

5月19日に厚生労働省から公表された平成26年度「大学等卒業者の就職状況調査」によると、平成27年3月の大学卒業者の就職率（就職希望者に占める就職者の割合、4月1日時点）は96.7%で、前年よりも2.3ポイントの上昇となった。

就職率の推移をみると、調査開始（平成9年3月卒）以来最低の水準となった平成23年3月卒91.0%の後、4年連続の上昇となっている。平成27年3月卒の96.7%は、平成20年3月卒の96.9%に次ぐ高水準である。

<男女の違い>

就職率を男女別にみると、調査開始当時は男子の就職率が女子を上回っていたが、平成15年頃まで縮小し、それ以降は男女の差は小さい。平成27年3月卒は、男子96.5%、女子96.9%となっている。直近3年をみると、女子の就職率が男子の就職率を上回っている。

<就職率よりも年による変動が大きい就職内定率>

次に、就職内定率との関係のみてみよう。厚生労働省では10月1日、12月1日、2月1日時点の就職内定率（就職希望者に占める内定取得者の割合）も調べている。下の図は、就職率と4か月前の12月1日時点の就職内定率、さらに両者の差の推移をみたものである。太い破線で示した就職内定率は、実線の就職率に比べて年による変動が大きい。また、就職内定率が低いときは、就職率との差が大きくなっており、その結果4月1日時点の就職率の変動がより小さいものとなっている。

就職率と就職内定率の差を男女別にみると、かつては女子の方が男子よりも大きく、女子の内定時期が男子に比べて遅かったことがうかがわれる。男女間の差は平成20年頃まで徐々に縮小し、平成21年以降はほとんどないといってもよい状態である。なお、平成27年では男子の就職率と就職内定率の差（17.6%ポイ

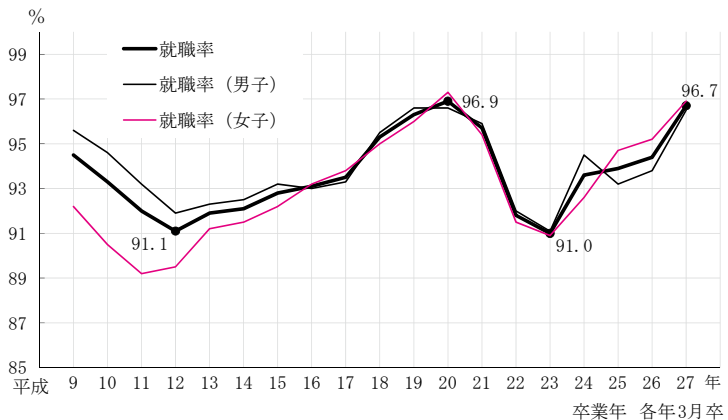
ント）の方が女子の差（15.0%ポイント）より大きくなっている。

<雇用情勢は改善傾向>

総務省「労働力調査（基本集計）」によると、4月の正規の職員・従業員は3294万人で対前年同月6万人増と、昨年12月以来5か月連続のプラスとなっている。また、失業率（季節調整値）は前月を0.1ポイント下回る3.3%となっている。厚生労働省「一般職業紹介状況」では、4月の有効求人倍率（季節調整値）は前月を0.02ポイント上回る1.17倍となり、平成4年3月（1.19倍）以来の高水準となっている。「雇用情勢は、改善傾向にある」（政府「月例経済報告」4月）状態にあり、学卒の就職状況にも好影響を与えている。

（調査・解析部）

大学卒業者の就職率の推移（4月1日現在）



就職率と就職内定率

